

地方創生推進交付金の効果検証【外部評価】

資料1-1

事業効果(自己評価)の区分(①非常に効果的であった、②相当程度効果的であった、③効果があった、④効果がなかった)

外部有識者の評価の区分(①有効であった、②有効とは言えなかった)

No	交付対象事業の名称	事業概要	交付金実績額	本事業における重要業績評価指標(KPI)			事業終了後における実績値	達成率	事業効果(自己評価)	外部有識者の評価				
				単位：円	指標	指標値	単位	実績値		事業の評価	外部有識者からの意見			
1	都心から1時間で会えるスローライフ体験事業（H28年度～H30年度）	【全体概要（目的）】 秦野市は都心から1時間程度の距離にあり、都心と豊かな自然「丹沢」が共生する「いい意味での田舎」である。しかし、豊かな自然はあるものの、観光資源・施設が点在しており、周遊性や滞在性に結びついていない。また、当市の9割を占める日帰り観光客が立寄る飲食店や魅力ある商品などがないため、市内での消費額が少なく、地域経済の活性化に結びつきにくいことが課題となっている。 そこで、ひと・まち・自然という「秦野らしさ」に磨きをかけながら、“住み続けたい・住んでみたい魅力あふれるまち”として魅力を発信し、人の流れを呼び込み、まちの賑わいを創出することを本事業の目的とする。	4,989,600	年間観光客数（増加分）	42,000	人	464,000	1105%	③効果があった (評価理由) 交付金充当事業に係る予算を計画どおり執行することができたため効果があつたと判断した。	③効果があった (評価理由) 3年間の事業であり、事業の効果を発揮できる段階に至っていないものの、年間観光客数は増加した。				
				観光客の年間消費額（増加分）	0	円	-	-						
				観光協会が定める「秦野観光推奨品」への新たなブランド品の登録	0	個	-	-						
		【H29年度実績】 1年目の現状分析などを踏まえ、新たな観光推奨品の開発、秦野SAを拠点に周遊性のあるルートを構築した。また、これらを生かし、官民が連携したキャンペーンを実施できる体制を構築した。	12,474,000	年間観光客数（増加分）	44,000	人	17,000	39%	③効果があった (評価理由) 3年間の事業であり、事業の効果を発揮できる段階に至っていないものの、年間観光客数は増加した。					
				観光客の年間消費額（増加分）	0	円	-	-						
				観光協会が定める「秦野観光推奨品」への新たなブランド品の登録	0	個	-	-						
		【H30年度計画】 2年目の推奨品の試作やルートの構築を踏まえ、推奨品の実証販売やルートをPRするため、キャンペーンなどを実施する。 また、秦野SAスマートIC（仮称）などのインフラ整備に合わせ、本市の魅力である丹沢の自然豊かな環境を手軽に体験できるピーカンハントを目指さない、新たな山岳ハイキングコースを創設していく中で、丹沢唯一のテントサイトの活用など、拠点の再整備に向けた調査検討を行う。	11,250,000 (内示額)	年間観光客数（増加分）	44,000	人								
				観光客の年間消費額（増加分）	57,882,000	円								
				観光協会が定める「秦野観光推奨品」への新たなブランド品の登録	3	個								

説明資料の添付

No.	資料の名称	資料番号	（説明資料の添付について）
1	都心から1時間で会えるスローライフ体験事業概要	1-2	1. 事業概要(実績)に記載した内容(成果)がわかる資料を添付すること。
2	秦野SAスマートIC周辺を拠点とした周遊ルートの検討状況	1-3	2. 可能な限り、案内図、位置図、イメージ図等を添付すること。
3	土産品等の試作品開発状況	1-4	3. 説明資料(右上)には、左記に対応する資料番号を記載すること。
4	観光プラットフォーム支援システムの試作状況	1-5	
5	主要観光地等観光客数	1-6	